



2024 ルール変更概要

サッカー

| 変更元 | 変更後 |
|--|--|
| 古い書式 | フッターの改訂日を2024年9月にすること |
| | <p>追加:</p> <p>4. ユニファイドスポーツ®</p> <p>4.1 ユニファイド種目における人数比率</p> <p>4.4.1 5人制サッカー：アスリート3人に対し、ユニファイドパートナー2人</p> <p>4.4.2 7人制サッカー：アスリート4人に対し、ユニファイドパートナー3人</p> <p>4.4.3 8人制サッカー：アスリート4人に対し、ユニファイドパートナー4人</p> <p>4.4.4 11人制サッカー：アスリート6人に対し、ユニファイドパートナー5人</p> <p>4.4.5 フットサル：アスリート3人に対し、ユニファイドパートナー2人</p> <p>4.2 すべての種目において、アスリートとユニファイドパートナーは、同程度の年齢と同程度の競技能力でなくてはならない。同程度の年齢と能力に関する詳細については、スポーツルール第1章総則14.1.2を参照のこと。</p> |
| <p>4.2.11 ゴールクリアランス</p> <p>4.2.11.1 相手チームの選手が最後に触れたボールがゴールラインを越えた（ゴール内ではなく）場合、ゴールキーパーは自陣ペナルティエリア内からハーフウェーラインを越えない範囲でボールを投げ入れプレー再開とする（ハーフウェーラインを越える前にボールがグラウンドや他の選手に触れなければならない）。ボールがペナルティエリアを越えた時点でインプレーとみなす。</p> | <p>変更:</p> <p>5.2.11.1 ゴールキックは、ボールが、地上または空中で、最後に攻撃側チームの選手に接触した後、ゴールラインを越え、得点が認められなかった場合に与えられる。ゴールキックから直接得点が認められる場合もあるが、相手チームに対してのみ認められる。ボールがキッカーのゴールに直接入った場合は、相手チームにコーナーキックが与えられる。ボールは静止しており、守備側チームの選手によってゴールエリア内のどの地点からでも蹴られる。ボールが蹴られ、明らかに動いた時点でインプレーとなる。相手チームは、ボールがインプレーになるまでペナルティエリア外にいないなければならない。</p> <p>5.2.11.1.1 ボールがインプレーになった後、キック</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>一は、ボールが他の選手に接触する前に再びボールに触れた場合、間接フリーキックが与えられる。キッカーがハンドの反則を犯した場合：</p> <p>5.2.11.1.1.1. 直接フリーキックが与えられる。</p> <p>5.2.11.1.1.2. 反則がキッカーのペナルティエリア内で発生した場合、ペナルティキックが与えられる。ただし、キッカーがゴールキーパーであった場合は、間接フリーキックが与えられる。</p> <p>5.2.11.1.2 ゴールキックが行われる際に、相手選手がペナルティエリアから離れる時間がなかったためにペナルティエリア内にいた場合、主審はプレーを続行させる。ゴールキックが行われる際にペナルティエリア内にいた、またはボールがインプレーになる前にペナルティエリアに入った相手選手が、インプレーになる前にボールに触れる、またはボールを争う行為をした場合、ゴールキックはやり直される。</p> <p>5.2.11.1.3 ボールがインプレーになる前にペナルティエリアに入った選手がファウルをしたり、相手選手にファウルされたりした場合、ゴールキックはやり直され、反則の内容に応じて、反則した選手は警告または退場となる。</p> <p>5.2.11.1.4 その他の反則の場合、キックはやり直される。</p> <p>5.2.11.2 上記のゴールクリアランスのルールは、ゴールキーパーがまだプレー中のボールを手で奪取した場合にも適用される。</p> |
| <p>4.2.14 ファウルと違反行為（オフサイドルールがないことを除く）</p> <p>4.2.14.1 ファウルは全て相手チームに間接フリーキックが与えられる（但し、ペナルティキックは直接フリーキックとなる）。</p> <p>4.2.14.2 退場となった選手（2回のイエローカード、もしくは1回のレッドカードを受けたとき）はそのゲームに再び出場することはできない。</p> <p>4.2.14.2.1 2分間の計測は主審が実施。</p> <p>4.2.14.2.2 2分間制限後の選手交代は、主審が交代を認め、ボールがアウトオブプレーになった時に認められる。</p> | <p>変更:</p> <p>5.2.14.1 選手が相手選手に対して、主審が不注意、無謀、または過剰な力の行使と判断した以下の反則を犯した場合、直接フリーキックが与えられる。</p> <p>5.2.14.1.1 チャージ</p> <p>5.2.14.1.2 ジャンプ</p> <p>5.2.14.1.3 キックまたはキックしようとする行為</p> <p>5.2.14.1.4 押す</p> <p>5.2.14.1.5 打撃または打撃しようとする行為（頭突きを含む）</p> <p>5.2.14.1.6 タックルまたはチャージ</p> <p>5.2.14.1.7 つまずかせるまたはつまずかせようとする行為</p> <p>5.2.14.2 接触を伴う反則は、直接フリーキックで罰せられる。</p> <p>5.2.14.2.1 不注意とは、選手がチャージを行う際に注意力や配慮を欠いた行為、あるいは予防措置を講じずに行動することを指す。懲戒処分は不要。</p> <p>5.2.14.2.2 無謀とは、選手が相手選手への危険や結果を無視して行動した場合であり、警告を受ける必</p> |

要がある。

5.2.14.2.3 過剰な力の行使とは、選手が必要な力の行使を超えた場合、または相手選手の安全を危険にさらした場合であり、退場となる。

5.2.14.3 選手が以下のいずれかの反則を犯した場合、直接フリーキックが与えられる。

5.2.14.3.1 ハンドの反則（ゴールキーパーがペナルティエリア内にいる場合を除く）

5.2.14.3.2 相手選手を押さえる。

5.2.14.3.3 接触によって相手選手を妨害する。

5.2.14.3.4 チームリストに載っている選手または審判員に噛みついたり、唾を吐いたりする。

5.2.14.3.5 ボール、相手選手、または審判員に物を投げる、またはボールを押さえながら接触するオブジェクト。

5.2.14.4 間接フリーキックは、以下の場合に与えられる。

5.2.14.4.1 危険なプレー。

5.2.14.4.2 接触なしに相手チームの進路を妨害。

5.2.14.4.3 反則、攻撃的、侮辱的、または暴言や暴言、その他の言語による反則。

5.2.14.4.4 ゴールキーパーがボールを手から放すのを妨害した、またはゴールキーパーがボールを放そうとしている時にボールを蹴った、または蹴ろうとした。

5.2.14.4.5 ゴールキーパーが手でボールに触れるか否かにかかわらず、頭、胸、膝などでゴールキーパーに（フリーキックまたはゴールキックからを含む）ボールをパスし、競技規則を回避するための故意のトリックを開始すること。故意のトリックを開始した責任がある場合、ゴールキーパーはペナルティを科される。

5.2.14.4.6 競技規則に規定されていない、警告または退場処分のためにプレーが中断されるその他の反則を犯した場合

5.2.14.5 ゴールキーパーがペナルティエリア内で以下のいずれかの反則を犯した場合、間接フリーキックが与えられる。

5.2.14.5.1 ボールを手または腕で6秒以上コントロールしてから放す。

5.2.14.5.2 ボールを放した後、他の選手に触れる前に手または腕でボールに触れる。

5.2.14.5.3 ボールを手または腕で触れる。以下の場合、ゴールキーパーがボールを蹴った、または蹴ろうとしたことが明らかでない限り、ボールをプレーに出すことはできない。

5.2.14.5.3.1 味方選手が故意にゴールキーパーに蹴

った場合。

5.2.14.5.3.2 味方選手がスローイン（キックイン）したボールを直接受けた場合。

5.2.14.5.4 ゴールキーパーは、以下の場合、手でボールをコントロールしているとみなされる。

5.2.14.5.4.1 ボールが両手の間、または手と何らかの表面（例えば、地面、自身の体）の間にある場合、あるいは手や腕のいずれかの部分でボールに触れている場合（ただし、ボールがゴールキーパーから跳ね返った場合、またはゴールキーパーがセーブした場合を除く）。

5.2.14.5.4.2 伸ばした手でボールを保持している場合。

5.2.14.5.4.3 ボールを地面でバウンドさせた場合、または空中に投げ込んだ場合

5.2.14.5.5 ゴールキーパーは、手でボールをコントロールしている間は、相手チームからチャージを受けることはできない。

5.2.14.5.6 危険なプレー

5.2.14.5.6.1 危険なプレーとは、ボールをプレーしようとしている際に、誰か（プレーヤー自身を含む）に怪我を負わせる恐れのある行為であり、怪我を恐れて近くの相手チームがボールをプレーするのを妨げることを含む。

5.2.14.5.7 接触なしに相手チームの進路を妨害する

5.2.14.5.7.1 相手チームの進路を妨害するとは、ボールがどちらの選手のプレー可能距離内にもないときに、相手チームの進路に割り込んで、妨害、ブロック、減速、または方向転換を強いることを意味する。

5.2.14.5.7.2 すべての選手は、フィールド上での自分のポジションを保持する権利を有する。相手チームの進路に割り込むことと、相手チームの進路に割り込むことは同じではない。

5.2.14.5.7.3 ボールがプレー可能距離内にあり、かつ相手チームが腕や体で阻止されていない場合、選手は相手チームとボールの間に位置取りしてボールを遮ることができる。ボールがプレー可能距離内にある場合、相手チームは当該選手にフェアチャージを与えることができる。

5.2.14.6 すべてのファウルは間接フリーキックとなる（ペナルティキックの場合は直接フリーキック）。

5.2.14.7 選手が退場処分を受けた場合（イエローカード2枚またはレッドカード1枚）、その選手は試合に復帰することはできない。そのチームは2分間、1人の選手を欠いてプレーしなければならない。

| | |
|--|---|
| | <p>5.2.14.7.1 2分間の経過時間の確認は、第1審判（主審）が行う。</p> <p>5.2.14.7.2 2分経過後に交代で試合に出場する選手は、主審の同意があり、かつボールがアウトオブバウンズにある場合にのみ、交代で出場することができる。</p> |
| <p>4.2.14 ファウルと違反行為（オフサイドルールがないことを除く）</p> <p>4.2.14.7.1 2分間のチェックは審判が行うものとする。</p> | <p>変更：</p> <p>5.1.13.2.1 2分間の計測は主審が実施。</p> |